

（家族だより）

母の表情に思う

北方 岡田 幾久栄

母は、明治四十年生まれで今年九十一才になります。かねてより足の膝が「く」の字に曲がったまま硬化し、立ち居振る舞いが不自由なため寝たきりとなり、松山市の介護施設「ペテル病院」又は「栗林荘」に入所してお世話になっておりました。

私達家族が主人の定年退職で、川内町に引っ越すと同時に母を引き取り、介護するようになりやがて二年半になります。

老人を「二度わらべ」とよく申しますが、母は記憶の減退により人の見極めができないこと、感情の表現及び手足の動き等がいかに子供じみていて、食事時の世話及び下々のことで手をやく等のほかは、身体にこれといった悪いところはなく介護はしやすいい方ではないかと思えます。引き取った当初は、主人に手伝ってもらい入浴をさせましたが、不慣れな上に女手一つでは重くて自由に動かす事ができず、また椅子から転げ落ちるのではないかと不安で、十分に洗えないため母が可哀相になり、どうしたらよいか途方に暮れたときがありました。今では「えぐも」のデイサービス及び社会福祉協議会の方々の自宅での入浴サービス等で週に二回の入浴をさせていただいております。母も気持ち良く入浴を楽しむと同時に私も当初苦勞していただけに、本当に有り難く心から感謝しております。

母は、理性的で気の強い人でした。今は、日によって感情の起伏が激しく、笑う・怒る・泣く・トンチンカンな言動をして無言の抵抗等「精一杯生きているんですよ」と言わぬばかりです。これは、現実に対する感情の表現ではなく、どんどん薄れ消えていく記憶の中を彷徨い、生涯の喜怒哀楽の断片を手繰り寄せた結果

の感情が現れているのではないかと考えられます。これは、毎日介護している私だけに判ることで、デイサービスで週に一度お世話になる皆様には大変なお気遣いや、ご苦勞を掛けていっているのではないかと思えます。連絡帳に記載された「一日の様子」を読んで「あゝ、今日は機嫌が良かったのか」とホッと安心します。

皆様の献身的な温かい介護により、母は今では入浴を楽しんでいるようにも思います。母には皆様のお世話に感謝する気持ちを表すことはできませんが、私は、ほぼ一世紀にわたる激動の時代を妻として、主婦として、また母として、苦しいなか家庭を守り、私たちを育ててくれた母に感謝し、晩年を落ち着いた穏やかな日々が過ごせるよう精一杯頑張りたいと思います。どうか、今後とも母を宜しくお願い申し上げます。



平成10年度前期 家族介護教室の予定

△六月▽

食中毒の予防（ビデオ放映）
高齢者の安全管理と応急処置

△十月▽

高齢者福祉の動向と福祉サービス
（介護保険等）
ベッド上の動作
（片麻痺や寝たきり等）